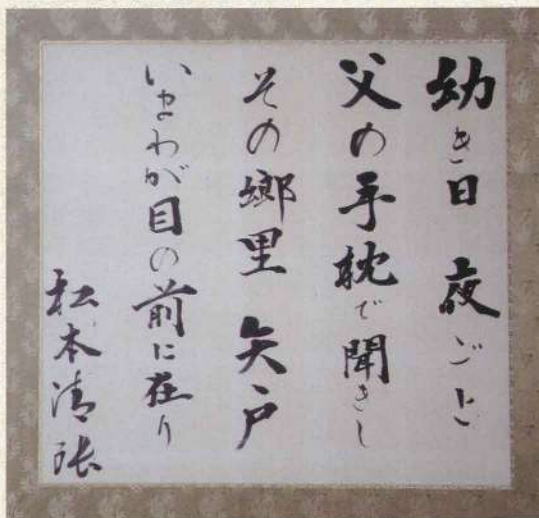


碑文



↑自然石にブロンズのレリーフ(100cm×93cm)



↑松本清張先生直筆の書

◎松本清張資料室：文学碑の近くの日野上地域振興センターに
(平日9時～16時) 資料室もあります。

松本清張ゆかりの資料を展示しています。

※松本清張文庫を日南町図書館(霞)に揃えています。
どうぞ、ご利用ください。

交通のごあんない



松本清張文学碑に関するお問い合わせ先

日南町役場企画課

Tel. 0859-82-1115

松本清張文学碑を

訪ねて



鳥取県日野郡日南町

日南町ゆかりの文豪 松本清張先生

松本清張先生は、明治42年12月21日、日南町矢戸出身の巖父峯太郎慈母タニの一子として福岡県小倉市（現在の北九州市）に生まれる。

昭和26年『週刊朝日』の懸賞小説に処女作『西郷札』が入選し直木賞候補となり、昭和27年「或る『小倉日記』伝」で第28回の芥川賞を受賞。以来「点と線」「ゼロの焦点」「黒い画集」「砂の器」など数々の名作を発表、社会派推理小説の新しい分野を開拓した。

また、古代史をはじめとした歴史小説などの著作も多く、その幅広い文筆活動は他の追随を許さず、わが国を代表する文壇の巨匠として高く評価されてきた。

特に昭和30年に発表された「父系の指」や「半生の記」には、先生の心のふるさととして矢戸が紹介されており、矢戸をこよなく愛した巖父の切々たる思いがあますところなく描かれ、町民ひとしく敬慕するところである。

昭和59年、町民相はかり先生の偉業をたたえて、父祖ゆかりの地に松本清張文学碑を建立し、顕彰活動を続けている。

●平成4年8月、82歳でなくなる。

文学碑

- 建立位置 鳥取県日野郡日南町矢戸1200番地1
- 用地面積 約1,000㎡、文学碑を中心に花木を植え、小公園風とした。
- 碑材 自然石
長さ3.0m 高さ1.5m 厚み1.0m
- 碑文 松本清張先生の直筆

除幕式
(昭和59年4月18日)



私は幼いころから何度も父から矢戸の話^{ヤヒ}を聞かされた。矢戸は生れた在所の名である。父の腕を手枕にして、私は話をきいたものであった。「矢戸はのう、ええ所ぞ、日野川が流れとってのう、川上から砂鉄が出る。大倉山、船通山、鬼林山なぞという高い山がぐるりにある。船通山の頂上には根まわり五間もある大けな梅の木が立っとってのう、二千年からの古い樹じゃ、冬は雪が深い。家の軒端まで積る」

その話をきくごとに、私は日野川の流れや、大倉山の山客や、船通山の巨大な梅の木の恰好^{かっこう}を眼の前に勝手に描いたものであった。その想像の愉しみから、同じ話を何度もきかされても、飽きはしなかった。

「父系の指」より